日刊 動労千葉
81.4.26
全国版 No.84
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二-一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

81春闘の敗北をのりこえ
軍事大国化と対決する労働運動を創造しよう

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

全国の動労組合員のみなさん。

八一春闘は、職場・生産点の闘う意欲とは裏腹に不本意な「ストなし春闘」で集約されました。　動労千葉は、八一春闘を「反処分・生活防衛・反合・労農連帯春闘」と位置づけ、三月ジェット決戦闘争勝利の地平をさらに拡大し、国鉄三五万人体制を粉砕し、産報化を許さない戦闘的労働運動の拡大を目指す闘いとして闘い抜きました。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

動労千葉の路線的正義性

敵権力中枢は、八一春闘を、「ストなし春闘→春闘解体→総評解体」という形をもって日本労働運動をより一層産報化させるためのものとして、あらゆる手段を尽した攻撃をしかけてきました。

支配体制の危機を、「八三年改憲・軍事大国化」という基本路線で乗り切ろうとする攻撃の一環として、この八一春闘があったという視点を持たない限り、正しく総括することはできません。その意味で、八一春闘に当ってわれわれ国鉄労働者は、「軍事大国化のための国鉄」化攻撃としてある「国鉄三五万人体制・国鉄〃再建〃法案」と対決する視点が絶対に不可欠であります。

動労千葉は、この間、敵の政治的基本路線と対決する労働運動確立のために、労農連帯・三里塚・ジェット闘争を闘い、同時に、同じ視点から合理化問題をとらえ、船橋事故闘争から乗務員運用合理化粉砕の闘いに至る一連の反合・運転保安確立の闘いを闘い抜いてきました。

三月ジェット決戦闘争の勝利は、このような動労千葉の路線的正義性と闘いの実践の積み重ねによって、はじめて可能となった闘いであり、八一春闘もまた、単に大巾賃上げのみを追求するのではなく、この路線的正義性を貫徹する闘いの一貫として闘い抜かれました。

「ストなし」を卒先した「本部」反動分子

この動労千葉の闘いの対極に、労働者の闘いを敵に売り渡す合理化の水先案内人・当局の武装親衛隊＝「本部」反動分子の存在があるということが、この間の三月ジェット決戦→八一春闘四月決戦段階の闘いを通して、より一層鮮明に突き出されています。

「貨物安定宣言」「三里塚敵対」「水本・小谷謀略への埋没」という反階級的路線に固執するが故に、闘いの位置づけがでたらめなものとなり、職場・生産点が苦悩するというパターンが、この八一春闘の中でも、全国の動労職場の中で無数に現出されています。

例えば、「ストなし」を卒先し、そのことを前提に、「富塚が悪い」「統一労組懇が悪い」と他へ悪口雑言をら列するばかりで、自らは何をもって闘うのかということが全く出されていないこの間の「中央委員会」や「全国戦長」の方針書を前に、全国の動労職場で「『反合・反ファッショ春闘』と銘うってあるが、具体的に何をやれというのか」というまじめな組合員の怒りが噴出するという事態の中に、「本部」反動分子の路線的・運動的破産がより一層深化しているという現実が隠しようもなく現出されているのです。

助士廃止以上の大合理化攻撃としてある「乗務員運用合理化」を「地方課題である」と当局に売り渡し、組合員に屈服を強要する「本部」反動分子の出す方針で、労働者的未来が展望できるわけがないのです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

動労大改革へ

以上のような動労千葉の前進と「本部」反動分子の破産は、千葉の地における闘いの中でも、鮮明に現出されています。

四月二十二日、動労千葉は、三月決戦闘争の確信も高く、津田沼・三五〇、佐倉・二六〇、新小岩・一〇〇、館山・七〇、勝浦・一〇〇という結集をもってスト前夜集会をかちとり、籠城体制をもって意気高く闘い抜きましたが、「本部」反動分子と土屋粋等裏切者は、同日午前中に、四・一七津田沼襲撃で片岡支部長に頭蓋骨々折の重傷を負わせた下手人・神保等三〇名余が、横断幕だけが立派な「総決起集会」を当局白腕章の防衛のもとにデッチ上げただけで、三信ビルと旅館での「ネトライキ」をきめこんでいたのです。

全国の動労組合員のみなさん。

八一春闘の惨タンたる状況を乗り越え、真に労働者・人民の未来を切り拓く、軍事大国化攻撃と対決する労働運動を創り出してゆくためにともに奮闘しようではありませんか。

全組員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！